

移転決定後の基本構想、設計条件作成などの準備期間①

平成2年度(1991年3月)

管財課に赴任した平成元年度の一年間は、議会対応の傍ら、建て替えの先進地であった新潟県、宮城県、山口県、沖縄県、徳島県などの県庁舎を精力的に視察し、先方から色々と言われた中で、県庁舎の建て替えという大事業に臨む心構えを培ってまいりました。

また、当時は、OA化等の進展が目覚ましく、民間の大型オフィスなどは競って「インテリジェントビル」を合言葉に建設がなされていきました。

新しい時代にマッチした県庁舎をイメージして、情報化の進展等に備えるため、最先端のインテリジェント庁舎を目指し、4つの視点である、①OA(オ



4話

8代目 県庁舎 誕生ものがたり

県建築士事務所協会、県設計監理組合顧問 崎元 博典



新潟県庁視察

建設準備事務局を設置

(写真・筆者提供)

看板設置(土屋知事・局長当時)



専門誌などを頼りに先進的な民間建築物についても情報収集に努めました。

平成2年(1990)4月の人事異動に伴う組織編成で、ようやく総務部に県庁舎建設準備事務局が設置され、技術職員の仲間も加わり、局長以下14人体制(事務6、技術5、兼務3)で本格的な取り組みがスタートしました。

この1年は、県庁舎の基本構想策定と次年度の設計発注に向けての設計条件等の取りまとめが主であり、デスクワークが中心でしたが、引き続き、先例県や東京都庁舎をはじめ、民間を含む大型建築の視察調査に出掛け、新しい県庁舎のイメージを膨らませました。



山口県庁視察

視察時のエピソードとして、沖縄県庁舎を訪れた際、警察庁舎の外観を撮影していたところ、不審者として呼び止められ、身元を確認するたため鹿兒島県庁に問い合わせをされた苦い思い出があります。

南薩振興局建設部

上ノ山橋現場見学会

児童ら興味津々

同日は、益山小学校児童50人と教諭らが参加。同土木建築課道路建設第一係の兒島公美子技術専門員は幅員が狭いほか、58年が経過して架け替えが必要とした理由、橋の構造、事業概要等を話した。施工の大江博之現場代理人(上東建設)が仮橋や施工手順などを説明。普段は見ること



大型クレーンを見上げる児童ら(南さつま市の現地)

鹿工高生が企業見学 地域支える責務理解

鹿兒島市に拠点を置く(田中義郎社長)は13日、鹿兒島工業高校が実施した企業見学の生徒を受け入れた。進路選択を控える電子機械系2年生約70人が参加。地域の水インフラを支えるその責務に迫った。

組織の核となる技術部署2グループの作業を見学。製缶工場



鹿工高生が企業見学(写真・筆者提供)

産資循環協、出前講座

業界知るきっかけに

元の橋に愛着を持ってもらえれば幸い」と話した。現場では、クレーン

試乗体験、測量機器を使ったクイズ、ドローンのデモンストレーションなどもあった。

「廃棄物の基礎知識と処理講義」を受講。講師は、一般廃棄物と産業廃棄物の定義や処理の流れを解説し、地球環境や働く人を守るためにも「分別することと資源として生まれ変わることをできる」と力を込めた。

県産業資源循環協会(永田雄一会長)は12日、鹿兒島市の鹿兒島工業高校の生徒を対象に出前講座を行った。建設技術系の1年生40人が同市のフタマタ開発(二俣剛社長)を訪れ、機械化が進む廃棄物処理施設を見学。校内では廃棄物処理に関する講義を通じて、業界への理解を深めた。



機械化が進む廃棄物処理施設を見学(鹿兒島市のフタマタ開発)

始良市の日本山河川敷

菜の花が満開

1989年から社員と地域住民らが大切に育ててきた。始良市の日本山河川敷



今年も菜の花が満開。始良市の福永建設(福永和則社長)が毎年恒例の地域貢献活動の一環として植えている菜の花が同市の日本山河川敷に鮮やかに咲き誇り、春の訪れを待つ市民らの憩いの場となっている。この活動は、1989年(平成元年)から取り組んでいるもの。JR日豊線と国道10号の日本山河川沿い約800m区間の菜の花ロードで、社員や地域住民らが種をまき、草取りや追肥、水まきなどを行い大切に育て、一帯はきれいな黄色で彩られた。福永社長は「3月末ごろまで見ごろ。多くの人に足を運んでいただき、散策を楽しんでほしい」と話した。